

1. 景況概要データ

① 景況概要(業種別)

建設業	平成 28 年		予測傾向
	4月～6月	7月～9月(予測)	
売上高	0.0% ☁️	33.3% ☀️	↗️
資金繰り	16.7% ☀️☁️	16.7% ☀️☁️	⇒
採算	16.7% ☀️☁️	16.7% ☀️☁️	⇒
業況	33.3% ☀️	33.3% ☀️	⇒
従事者	16.7% ☀️☁️	0.0% ☁️	↘️

●今期の景況動向指数(DI値)は、「売上高/0%」「資金繰り/16.7%」「採算/16.7%」「業況/33.3%」「従事者/16.7%」であり、基本的には好調傾向。
 ●来期への予測としては、「従事者」を除く4つの項目が不変または改善方向にある。特に、経営の源泉である「売上高/33.3%」の回復傾向が強めに顕れている。

小売卸業	平成 28 年		予測傾向
	4月～6月	7月～9月(予測)	
売上高	-50.0% ☔️	-16.7% ☔️☁️	↗️
資金繰り	0.0% ☁️	0.0% ☁️	⇒
採算	-16.7% ☔️☁️	0.0% ☁️	↗️
業況	-33.3% ☔️	-16.7% ☔️☁️	↗️
従事者	0.0% ☁️	0.0% ☁️	⇒

●今期の景況動向指数(DI値)は、「売上高/▲50%」「採算/▲16.7%」「業況/▲33.3%」「資金繰りおよび従事者/0%」であり、全体的に低調な傾向。
 ●来期への予測としては、「従事者および資金繰り」以外の3つ項目が改善方向にあるがその改善幅は弱めであり、全項目ともにマイナスの領域を脱却できない予想。

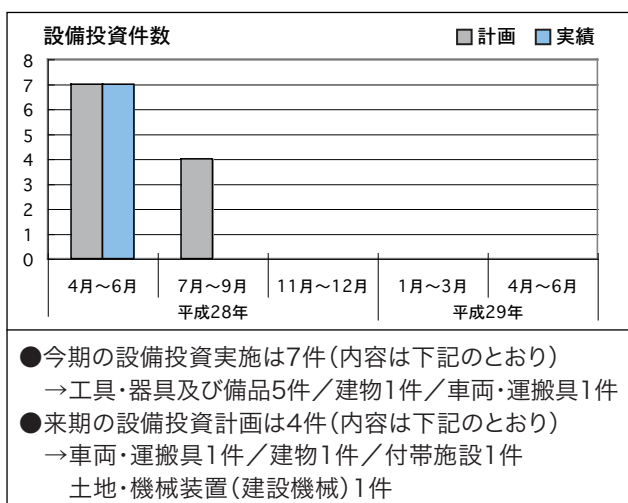
サービス業	平成 28 年		予測傾向
	4月～6月	7月～9月(予測)	
売上高	-83.3% ☔️	0.0% ☁️	↗️
資金繰り	-66.7% ☔️	-16.7% ☔️☁️	↗️
採算	-66.7% ☔️	0.0% ☁️	↗️
業況	-50.0% ☔️	16.7% ☀️☁️	↗️
従事者	16.7% ☀️	16.7% ☀️☁️	⇒

●今期の景況動向指数(DI値)は、「売上高/▲83.3%」「資金繰り/▲66.7%」「採算/▲66.7%」「業況/▲50%」であり全体的に「きわめて不振」の傾向。
 ●来期への予測としては、「従事者」を除く4つの項目が改善方向にあり、数値上の改善ポイントとしては大きい。全体的にプラス領域への移行が弱い傾向。

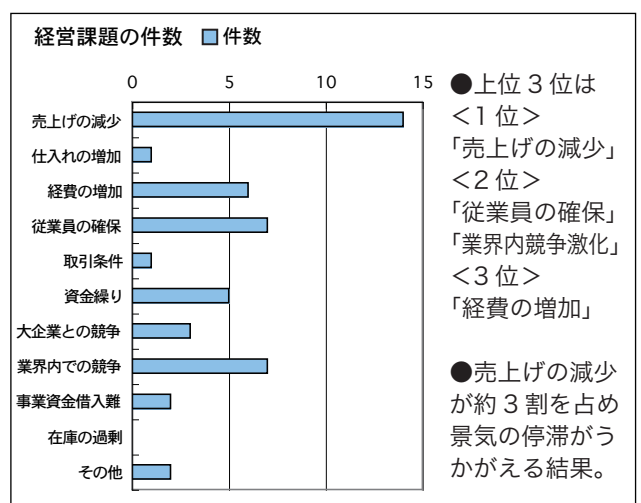
製造業	平成 28 年		予測傾向
	4月～6月	7月～9月(予測)	
売上高	-33.3% ☔️	-33.3% ☔️	⇒
資金繰り	-66.7% ☔️	-33.3% ☔️	↗️
採算	-50.0% ☔️	-33.3% ☔️	↗️
業況	-50.0% ☔️	-33.3% ☔️	↗️
従事者	16.7% ☀️☁️	16.7% ☀️☁️	⇒

●今期の景況動向指数(DI値)は、「従事者/16.7%」を除いて「売上高/▲33.3%」「資金繰り/▲66.7%」「採算/▲50%」「業況/▲50%」であり全体的に「きわめて不振」。
 ●来期への予測としては、「売上高および従事者」を除く3項目が改善傾向にはあるが改善幅は小さく、全体的に「きわめて不振」の状況に停滞する予測。

② 設備投資概況(全業種)



③ 経営課題概況(全業種)



2. 景況概要のまとめ(業種別)

①建設業

建設業における今期の景況感は、「売上高/0%」以外の4つの項目におけるDI値がプラスの指標となっており、比較的好調な状況と判断される。

課題の中にも見受けられるように、従業者不足、経費の増加など仕事量の増加を裏付ける内容となっていることが推測される。

来期(平成28年7月~9月)に向けての景況感の予想は、「従事者」を除く4つの項目で現状維持および回復基調にあり、特に経営の源泉である「売上高」は0%→33.3%と大きく改善する予想となっている。宮崎県内の建設業の傾向としては「売上げ」「採算」「資金繰り」ともにDI値がマイナスの指標となっており厳しい経営環境が継続している状況ではあるが、本エリアにおいては比較的好調な状況となっている。その一要因としては、先の熊本地震の復興支援上の業務増加も推測される。

②小売卸業

小売業における今期の景況感は、「従事者/0%」以外の4つの項目におけるDI値がマイナスの指標となっており、かなり厳しい状況と判断される。

特に、経営の源泉である「売上高/▲50%」が全体の低調さを押し下げている状況と判断される。

来期(平成28年7月~9月)に向けての景況感の予想は、全体的に回復基調ではあるがその改善レベルは弱く、低調であると推測される。

宮崎県内の小売業の傾向としては「売上げ」「採算」「資金繰り」ともにDI値がマイナスの指標、また全国的にも円高や消費者物価指数の下落傾向など、消費者購買力を即効的に向上させる要因が少ないことより、本エリアにおいても厳しい経営環境がしばらく継続することが推測される。

③サービス業

サービス業における今期の景況感は、「従事者/16.7%」以外の4つの項目におけるDI値が▲50%以上のマイナスの指標となっており非常に厳しい状況と判断される。

特に、経営の源泉である「売上高」が▲83.3%であり、その1つの要因として熊本震災の影響による観光客の減少などが考えられる。

来期(平成28年7月~9月)に向けての景況感の予想では、ポイントは大きく改善され全体的に回復基調ではあるが、その改善レベルは弱めで低調であると推測される。

宮崎県内のサービス業の傾向としては「売上げ」「採算」「資金繰り」ともにDI値がマイナスの指標で景況感は低下傾向であり、サービスの利用数や頻度および単価などの向上は弱い動きになることが推測される。本エリアは熊本地震の影響を大きく受けたところでもあり、今後の災害復興やインフラ改修の進捗状況によっては徐々に観光客の回復も期待できる部分も存在する。

④製造業

製造業における今期の景況感は、「従事者/16.7%」以外の4つの項目におけるDI値が▲30%以上のマイナスの指標となっており非常に厳しい状況と判断される。

特に、経営持続の要である「資金繰り」が▲66.7%と厳しい指標となっており、経営課題も資金循環に起因する内容が見受けられる。

来期(平成28年7月~9月)に向けての景況感の予想では、全体的に回復基調ではあるが、その改善幅は弱めで「きわめて不振」の領域を脱却できない状況と推測される。

宮崎県内の製造業の傾向としては「売上げ」「採算」「資金繰り」ともにDI値がマイナスの指標で、過去1年の中で最大の落ち込み状況となっている。要因は熊本地震による経済的影響と推測されるが、インフラおよび流通の回復等の推進により、来期は若干の復調傾向が予測されている。本エリアもそれと同様に徐々に復調していくと推測される。